
福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

川崎市高石保育園

添付書類

- ①川崎市福祉サービス第三者評価結果報告
- ②評価結果
- ③職員自己評価シート集計結果
- ④職員自己評価シート記入欄(主な意見)
- ⑤利用者アンケート集計結果
- ⑥利用者アンケート結果

平成31年3月26日

公益社団法人 けいしん神奈川

〔川崎市福祉サービス第三者評価結果報告様式〕
 (認可保育所版)

対象事業所名(定員)	川崎市高石保育園 (定員90名)
経営主体(法人等)	川崎市
対象サービス	認可保育園
事業所住所	〒215-0003 川崎市麻生区高石1-14-15
事業所連絡先	044-954-5355
評価実施期間	平成30年12月～平成31年 3月
評価機関名	公益社団法人 けいしん神奈川

評価実施シート (管理者層合議用)	評価実施期間 平成 30年 12月 12日～平成 31年 1月 29日
	(評価方法) ・ 園長、園長補佐との合議により指定の評価票により自己評価を行なった。
評価実施シート (職員用)	評価実施期間 平成 30年 12月 12日～平成 31年 1月 29日
	(評価方法) ・ 施設より職員全員に評価実施シートを配布。 ・ 記入後、園内設置の回収箱(評価機関準備)に投函。
利用者調査	配付日)平成 31年 1月 7日 回収日)平成 31年 1月 29日
	(実施方法) ・ 施設より利用者家族全員にアンケート用紙を配布。 ・ 記入後、園内設置の回収箱(評価機関準備)に投函。
評価調査者による 訪問調査	評価実施期間(実施日) /平成31年2月26日・27日
	(調査方法) ・ 評価者2名が訪問し、施設見学及び園長・園長補佐へのヒアリング、保育観察を行った。 ・ 職員へのヒアリング及び園長・園長補佐へのヒアリングを行った。

[総合評価]

〈施設の概要・特徴〉 高石保育園は、小田急線「百合ヶ丘」徒歩5分の住宅地に昭和51年5月1日開設されています。園舎は、鉄筋コンクリート2階建てで、建てられてから年数を経っていますが、職員たちが毎日の点検等で確認を行い、子どもたちが安全・安心に過ごせるように取り組んでいます。園の保育目標である「た 楽しくあそぶ子ども、か 考える子ども、い 意欲のある子ども、し 自分を好きになれる子ども」の実現を目標に、子どもたちが保育園を楽しいと思ってもらえるように取り組んでいます。当園の職員は、豊かな経験と保護者に信頼される対応で保育の基本である、子どもとの関わりと保護者との関係づくりで高い評価を得ています。園庭の芝山には湧き水が流れ、サワガニなども生息するなど環境にも恵まれています。地域との関わりも大切にしています。保育相談や保育体験、園庭開放等で地域との交流を深めています。

[全体の評価講評]

〈特によいと思う点〉

経験豊かな職員の対応で、保護者と良好な関係が築かれています。

保護者との関わりでは、迅速な対応を心がけています。対応が難しい内容についても丁寧な説明を心がけています。経験豊かな職員のきめ細かな対応により保護者からは、「子どもだけでなく、保護者の体調にも心を配ってくれている」「相談に親身に答えてくれる」など信頼の声が多く聞かれました。職員間の連携では経験に裏打ちされた多くの工夫が随所で見られました。リーダー会では、事前に職員たちが困っていることを把握し、楽しく気持ちよく頑張れるように話しあっています。職員の知恵と工夫で質の高い保育が進められています。

子どもたちが、食への関心を持ち楽しく食事できるように取り組んでいます。

子どもたちが楽しく食事出来るように様々な取り組みを行っています。食事環境では子どもにテーブルや椅子が合うように足台を用意するなどをしています。開始時に、当番の子がメニュー紹介や「いただきます」と大きな声で伝え楽しく食事している様子が見られました。行事食では季節感を感じられる献立や盛りつけで、子どもたちが楽しく食事できる工夫を行っています。月に2回同じ献立なので1回目の状況を把握し、次回に反映しています。園庭で栽培した野菜などの提供や調理保育で子どもたちが食への関心を持つ取り組みを進めています。

計画の策定、実施、評価のなかに、振り返りをしっかり組み込んで取り組んでいます。

たとえばイベントを行う場合でも、楽しかった、さようなら、というのではなく、しっかり次につなげていくという意識を強く持って取り組んでいます。いわゆる見直し意識が非常に強いことが、多くの改善につながっています。こうした仕組みが全職員の参加や業務の見える化、問題点や課題、悩みの共有化や活発な議論によって、より有効に働くようになっていきます。

〈さらなる改善が望まれる点〉

安全や防犯の取り組み内容を保護者に再度伝え、不安を取り除くことが必要と感じます。

緊急時の対応や災害時の安全確保はマニュアルや実技研修で職員は理解しています。安全確保も防災訓練で子どもの安全確保と職員の役割を確認しています。子どもたちも防災教育や防犯教育でロールプレイ形式の疑似体験をおこない防犯意識の向上を図っています。危機管理計画に沿い職員は年4回防犯訓練を行い不審者侵入時の対応について確認しています。このような取り組みで安全対策等に取り組んでいますが、保護者からは、防犯について一部不安の声も寄せられています。園での取り組みや対応を再度保護者に伝えることも必要と思われれます。

特に地域支援等における業務負担増への対処の工夫が必要と感じています。

地域支援を強化することで外へ出ることが多くなってきています。かなりの部分において、精神的にも物理的にも改善に取り組んでいますし、具体的な成果も出てきていますが、たとえば事務ワークのできる方を一人増やすことはできないか、連携やチームワークをより強化することで業務負担の軽減に結び付けられないか等々、改善へ向けてのなお一層の取り組みが求められています。

〈サービス実施に関する項目〉

<p>共通評価領域 1 サービスマネジメントシステムの確立</p>
<p>入園説明会や入園時面談で、園の保育目標や園で大切にしていること、園の保育の特色を伝えています。保育開始時には、保育や健康管理、食事について保育士が面談し子ども一人ひとりの生活のリズムや体調に合わせた対応や慣れ保育などについて説明しています。保育説明会では、プレゼンツールを使った説明や動画での職員紹介を行い園の楽しい雰囲気伝える工夫を行っています。利用開始後は「お子さんが保育園に慣れるまで」のステップに沿って慣れ保育を行っています。保護者への丁寧な取り組みで保護者の不安の軽減に取り組んでいます。</p>
<p>園では、全体職員会議、乳児・幼児職員会議、朝のミーティング等で情報共有や振り返りを行っています。保護者の要望や意向は、面談や夏まつり、運動会、キラキラ発表会等の行事後の感想等により把握しています。保護者からの要望や意見は、職員会議で検討しその後の保育や行事の見直しや改善に結びつけています。日々の保育については、ミーティングノートや保健日誌、事故報告書、ヒヤリハット等に記載しています。対応等については、乳児・幼児職員会議や朝のミーティングで職員に伝え、情報の共有と意思統一を行っています。</p>
<p>毎月の防災訓練で子どもの安全確保と災害時の職員の役割を確認しています。日頃から子どもたちの安全能力を育てるため、防災教育や防犯教育に取り組んでいます。防犯教育ではロールプレイ方式で実際の対応を経験し身につく取り組みを行っています。職員は緊急時の対応について、緊急マニュアル、危機管理マニュアル、事故発生時対応マニュアル等で理解しています。マニュアルは毎年見直しを行い、保育の質を高めています。またアクションカードを活用した実技研修で迅速な対応と漏れの無い対応について全職員が学んでいます。</p>

評価分類		A
(1) サービスの開始・終了時の対応が適切に行われている。		
<p>①園の情報は市のホームページやパンフレット等で伝えています。子育て支援の情報は門横の掲示板、園のチラシ等で伝えています。</p> <p>②保育の開始時には、重要事項説明書で説明しています。保育の内容や健康管理等については職員が面談で確認しています。必要に応じ看護師や栄養士も面談し子どもの情報を共有しています。保育の内容や一時保育で意図しているねらい、行事については保育説明会で伝え、受託時間は園長と保護者の面談で確認しています。</p> <p>③保護者へは、個別の連絡帳や個人面談、懇談会などで園での生活等を伝えています。子ども一人ひとりの生活リズム、体調に合わせた生活配慮、給食提供をしていることや保護者の就労に合わせた慣れ保育などの取り組みを伝えています。</p> <p>④幼保小連携会議等で得た情報は保護者に伝えています。小学校には、保育要録や引継ぎ面接で子ども等の情報を提供しスムーズな就学に配慮しています。年長児交流会では、同じ小学校へ行く子ども同士の交流や近隣の小学校へ出向き小学生との交流を行っています。年長児クラスでは席に座り一定時間話を聞くなどのほか、当番活動や自分で持ち物の管理や準備などができるよう取り組み就学に向けた対応を計画的に進めています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	保護者等（利用希望者を含む）に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	○
②	サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。	○
③	サービスの利用開始後に、子どもの不安やストレスが軽減されるような支援を行っている。	○
④	就学がスムーズに行われるよう、保育の方法や保護者とのかかわりに配慮されている。	○

評価分類		A
(2) 手順を定め、その手順に従ったアセスメントを行い、サービス実施計画を策定している。		
<p>①園では、全体職員会議、乳児・幼児職員会議、朝のミーティング等で情報共有や振り返りをおこなっています。保護者の要望や意向は、面談や乳児の生活記録連絡票から得た情報や夏まつり、運動会、キラキラ発表会等の行事後の感想等により個別の要望を把握しています。保護者からの要望や意見は、園の職員会議等で検討しその後の保育や行事の見直しや改善に結びつけています。利用者に関する情報は職員会議等の会議で全職員に周知しています。</p> <p>②保育所保育指針をもとに「全体的な計画」を策定しています。全体的な計画をもとに年間や月の保育指導計画、週日指導計画を作成しています。また、看護師、栄養士による健康・食育計画も作成しています。一人ひとりの発達状況に配慮し3歳未満児と障がい児については、毎月個別指導計画を作成しています。</p> <p>③年間・各期・月・週ごとの計画についての評価・反省、振り返りは、全体職員会議や乳児・幼児職員会議でおこなっています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行っている。	○
②	指導計画を適正に策定している。	○
③	状況に応じて指導計画の評価・見直しを行っている。	○

評価分類 (3) サービスの実施の記録が適切に行われている。		A
<p>①保護者の就労状況や保育時間等の変更については、児童票に記録するとともに職員会議や朝のミーティングで全職員に周知しています。子どもの発達状況に合わせた関りについては、観察個人記録、離乳食経過記録、個人面談記録、ケース検討記録等に記入し園長が確認し必要に応じ話し合いを行っています。記録については、記入例の添付や記録についての研修で学んでいます。</p> <p>②記録類の回覧は、職員名簿を添付し職員の既読や未読の確認を行い職員が必ず読むように取り組んでいます。個人情報に関する書類は鍵のかかる場所に保管し、持ち出しを禁止しています。個人情報に関する書類や可動記録媒体は、毎日閉園後にファイルや媒体の数を確認し紛失等の予防に努めています。観察個人記録は、提出期日を厳守し、活きた情報として活用するように取り組んでいます。</p> <p>③子どもに関する情報は、緊急度合いを確認し状況に応じて緊急会議をおこない職員に周知しています。日々の保育での対応は、ミーティングノートや保健日誌、事故報告書、ヒヤリハット等に記載しています。対応等については、乳児・幼児職員会議や朝のミーティングで職員に伝え、情報の共有と意思統一を行っています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもに関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	○
②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○
③	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している。	○

評価分類 (4) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。		A
<p>①保育に必要な手順書は、川崎市公立保育園運営の手引き、健康管理マニュアル、保育園給食の手引き等のマニュアル類が整備されています。職員はマニュアルの内容に沿って業務を遂行しています。マニュアルの改訂内容は、各種の会議やミーティングで伝えています。</p> <p>②市のマニュアルは、手引きマニュアル部会等が園からの意見を基に見直し、検討、改定しています。改訂された内容は職員会議等で伝えるほか修正点を記載した書面を回覧し周知しています。園内でマニュアルや手順書等について、職員が年に1回定期的に見直しを行い保育の質の向上を図っています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	○
②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	○

評価分類 (5) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。		A
<p>①事故等緊急時の対応は緊急マニュアル、危機管理マニュアル等各種のマニュアルで職員は理解しています。緊急時の対応は看護師からの救命救急法の実技研修や感染症対策についての説明を行っています。緊急時の取り組みはアクションカードを活用した実技研修で、迅速な対応と漏れの無い対応について全職員が学んでいます。</p> <p>②安全確保については毎月防災訓練を実施し子どもの安全確保と職員の役割を確認しています。日頃から子どもたちの安全能力を育てるため、防災教育や身を守るための防犯教育を実施しています。防災訓練には、消防士に訓練の様子を見てもらう機会を設けるなど危機管理の向上を図っています。保護者には入園のしおりで、災害時の避難場所、園の対応を伝えています。</p> <p>③毎朝園庭の固定遊具の点検を行っています。月1回の園内園外の安全点検も進めています。危機管理プロジェクト年間計画に沿い職員は年4回防犯訓練を行い不審者侵入時の対応について確認しています。子どもたちへの防犯教育ではビデオで分かりやすく伝えただけでなくロールプレイ形式で疑似体験をおこない防犯意識の向上を図っています。ヒヤリとした事例はヒヤリハット検証記録で職員間の情報共有をおこない事故防止に努めています。</p>		
評価項目		実施の可否

①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制が整備されている。	○
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	○
③	子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	○

<サービス実施に関する項目>

<p>共通評価領域 2 人権の尊重</p> <p>一人ひとりの子どもが個性を十分に発揮し健やかに成長できる保育を進めています。子ども同士のやり取りでも円滑な意思疎通ができるように職員は寄り添いサポートする立場で保育を進めています。子ども同士のトラブルでも、両方の話を聞き理解しあえるよう取り組んでいます。人権マニュアルは、職員用と臨時職員用を作成し共通理解を持ち保育に取り組んでいます。保護者には、クラス懇談会で子どもの人権について考える場をもっています。子どもたちには、人権集会で人はそれぞれ違うこと、周りの人を大切にすることを伝えています。</p> <p>虐待の防止については園全体で早期発見・防止に取り組んでいます。虐待防止への対応は、経験豊かな職員による登園時の視診のほか着替え時、毎月の身体測定時に体にあざや傷がないか確認しています。喫食状況（朝食の有無等）体臭などでも確認しています。また、生活状況も把握し、虐待の防止や早期発見に努めています。虐待が疑われる場合には、市の児童虐待防止マニュアルにもとづいた対応のほか、児童相談所や保健福祉センターとの連携を進めています。保護者には重要事項説明書で責任者の設置や体制の整備等を伝えています。</p> <p>個人情報については、入園時に個人情報の取扱いや使用範囲について説明し署名押印を得ています。重要事項説明書では、受付担当や解決責任者、第三者委員について伝えています。配慮の必要な子ども等の発達相談を進める時は、必ず保護者と相談を行い、同意を得たうえで申請しています。必要に応じ保護者の意向に寄り添い時間をかけた対応も心がけています。園にいる2名のコーディネーターを中心にケース検討を行っています。行事等の写真掲示や外部に情報を出す場合は、その都度事前に保護者の同意を得てから行っています。</p>
--

評価分類 (1) サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している。		A
<p>①日々の保育は、保育者主導ではなく、子どもが自ら選択できるような保育を心掛けています。子ども同士のトラブルの時は、両方の話をよく聞き子ども同士が意思の疎通をおこない円滑に話し合うことができるように必要に応じやりとりを補助しています。子どもの気持ちを察し寄り添い受けとめるようにしています。</p> <p>②人権マニュアルは、職員用と臨時職員用を作成し共通理解を持ち保育に取り組んでいます。保護者には、年2回のクラス懇談会で子どもの人権について考える場をもっています。子どもたちには、人権集会で自分は守られる存在であることや周りの人を大切にする事の大切さを伝えています。</p> <p>③虐待防止への対応は、登園時の視診のほか着替え時、毎月の身体測定時に体にあざや傷がないか確認しています。喫食状況（朝食の有無等）体臭などでも確認しています。また、生活状況も把握し、虐待の防止や早期発見に努めています。職員には、市の虐待防止マニュアルにもとづいた対応のほか、ケース会議での検討、児童相談所、保健福祉センターとの連携をおこない虐待の防止・早期発見に努めています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	日常の保育にあたっては、個人の意思を尊重している。	○
②	子どもを尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	○
③	虐待の防止・早期発見のための取組を行っている。	○

評価分類 (2) 利用者のプライバシー保護を徹底している。		A
<p>①個人情報については、入園時に個人情報の取扱いや使用範囲について説明し署名押印で同意を得ています。配慮の必要な子ども等の発達相談を進める時は、必ず保護者と相談を行い、同意を得たうえで申請しています。必要に応じ保護者の意向に寄り添い時間をかけた対応も心がけています。園にいる2名のコーディネーターを中心にケース検討を行っています。また、写真掲示については、都度保護者の同意を得てから掲示しています。</p> <p>②日々の保育では、子どもの思いや気持ちを汲み取り、一人ひとりの気持ちに寄り添い、言葉掛けや対応を行い子どもの最善の利益に考慮し保育を進めています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもや保護者に関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている。	○
②	子どもの気持ちに配慮した支援を行っている。	○

＜サービス実施に関する項目＞

共通評価領域
3 意向の尊重と自律生活への支援に向けたサービス提供
<p>保護者の意見や意向等は個人面談・クラス別懇談会・保育説明会等で把握しています。行事ごとのアンケートでも保護者の意向を把握しています。事務室前に意見箱「あなたの声 みんなの声」を設置し、意見や要望を伝えやすいよう取り組んでいます。日頃から経験豊富な職員が保護者と話しやすい雰囲気・関係づくりを心がけています。保護者と会える時間が限られ待つこともあり、口頭で伝えることを大切に一緒に喜びあったり、悩みを共有することなどで保護者に寄り添った保育をおこなっています。</p>
<p>園では自由遊び、グループ活動、当番活動、異年齢グループでの活動や遊びや行事などで子ども同士が様々な関りを持てる機会を作り、子どもたちの自主性を大切にした保育を進めています。夏まつりでは、ポスター掲示のお願いや、おみこしや山車の練り歩きで地域や町内会との関わりを経験しています。支援が必要な子どもの保護者には子育ての大変さなどの気持ちに寄り添い保育を進めています。個別支援を行う時間の「ぱんだルーム」で子どもの発達に合わせた支援を進めています。園では「共育て」の考えで保護者とともに保育を進めています。</p>
<p>職員は、乳児期より受容的、応答的、共感的な関りで子どもとの信頼関係を築き、どの子も自己表現ができ主体的に生活できるように保育に取り組んでいます。子どもたちが年齢に応じ、一人ひとりの意見を発言したり話し合いを行う活動で子どもたちの自立を支援しています。食事の場面では、子どもたちが食事の挨拶や献立紹介を元気よく行ったり、園庭遊びでも自由に遊具を選び遊んでおり園の保育目標が実践されていることが見られました。</p>

評価分類	(1) 利用者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。	A
<p>①保護者の意見や意向等は、個人面談・クラス別懇談会・保育説明会等で把握しています。また、行事ごとのアンケートでも保護者の意向を把握しています。アンケートの意見は職員会議等で検討し、検討内容はおたより等で伝え次年度の行事に反映させています。事務室前に意見箱「あなたの声 みんなの声」を設置し意見や要望を伝えやすいよう取り組んでいます。乳児懇談会や保育参観では、保育の状況を見てもらい園の保育への取り組みについて理解を深めています。個人面談では、事前に連絡をいただき随時対応しています。</p> <p>②寄せられた意見や要望は職員会議で改善点・対処法を検討し保護者に回答しています。対応が難しい場合は、理由等を丁寧に説明し理解を得ています。日頃から保護者と話しやすい雰囲気・関係づくりを心がけ、保護者からの意向は直接担当の職員に伝えられています。保護者から意向や意見は、園長に迅速に伝えられています。日々の保育では、朝のミーティングやミーティングノート、クラス別引継簿で朝夕の申し送りを行い連絡漏れが無いよう取り組んでいます。</p>		
評価項目		実施の可否
①	利用者満足の把握に向けた仕組みを整備している。	○
②	利用者満足の向上に向けた仕組みを整備し、サービス向上に取り組んでいる。	○

評価分類		A
(2) 利用者が意見等をのべやすい体制が確保されている。		
<p>①日常的に、送迎時の保護者への声かけなどのコミュニケーションを取り、良好な関係づくりに努めています。乳児の生活記録連絡票、幼児クラスの個別の連絡帳を活用しコミュニケーションを取るなど、保護者が伝えやすいような取り組みをおこなっています。職員が保護者と会える時間は限られていますが、大切な内容については時間等の工夫を行い直接お話をすることを心がけています。保護者には積極的に話しかけ、悩みを聞くなどと一緒に喜び合うなどを行っています。このような経験豊かな職員のきめ細かな取り組みで保護者からは高い信頼が寄せられています。</p> <p>②川崎市苦情解決要綱に沿って、苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員を選定しています。保護者には、保育説明会で説明するほか玄関に掲示し周知しています。</p> <p>③保護者からの意向や要望は、園長に速やかに報告し、職員間で朝のミーティングや職員会議等で検討し共通認識を持ち解決に取り組んでいます。保護者には、対応が難しい内容についても丁寧な説明を心がけています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもや保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	○
②	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	○
③	子どもや保護者からの意見等に対して迅速に対応している。	○

評価分類		A
(3) 個別支援計画等に沿った、自立した生活を送るための支援を行っている。		
<p>①3歳未満児や障がい児は、毎月観察個人記録で発達の確認等を行い一人ひとりの育ちを理解し援助に繋げています。毎月の乳幼児打ち合わせでケース報告・検討を行い、必要に合わせて全体会議でも報告やケースカンファレンスを進め、職員間で発達や援助の方法を共有しています。</p> <p>②クラス全体で行う活動だけでなく、自由遊び、グループ活動、当番活動、異年齢グループでの活動や遊びや行事などで子ども同士が様々な関りを持てる機会を作っています。夏まつりでは、ポスター掲示のお願いやおみこしや山車の練り歩きで地域や町内会との関わりを経験しています。</p> <p>③保育者は、乳児期より受容的、応答的、共感的なかかわりで子どもとの信頼関係を築き、どの子も自己表現ができ主体的に生活できるようにしています。子どもたちが年齢に応じて一人ひとりの意見を発言したり話し合いを行う活動で子どもたちの自立を支援しています。</p> <p>④食物アレルギーがあり除去食提供の子どもには、遠足のおやつや会食時の献立などで工夫し、他の子と一緒に食べられるようにします。運動会では、身体的な障がいがある子どもの発達に合わせて参加できる種目を計画しその子の達成感に配慮しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子ども一人ひとりを受容し、その発達の過程や生活環境などの理解を深めて働きかけや援助が行われている。	○
②	様々な人間関係や友達との協同的な体験ができ、生活が豊かになるような環境が整備されている。	○
③	子どもが主体的に活動し、自分を表現し、他者の表現を受け入れる力が育つように支援している。	○
④	特別の配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。	○

〈サービス実施に関する項目〉

共通評価領域 4 サービスの適切な実施
<p>基本的な生活習慣が身につくよう、個々の発達に合わせながら食事、排泄、着替え、歯みがき等について、家庭との連携を大切にしながら進めています。登降園時の会話や乳児の連絡票で家庭での姿を把握し必要に応じ生活リズムの大切さを知らせ保護者と共通理解で情緒の安定を保ち意欲的に過ごせるよう支援を進めています。子どもたちの園での様子は、保護者には、懇談会のほか健康だより、給食だより、クラスだより等で子どもたちが楽しく園で生活していることを伝えています。保護者の意向は、個別面談や懇談会、保育参観等で確認しています。</p>
<p>園では、異年齢交流計画にそって異年齢保育を進めています。異年齢保育では、4つの異年齢のグループ集団をつくり、その中に異年齢3人の小集団をつくっています。活動を通し、「大きい子にあこがれを持つこと」「小さい子に対して思いやりの気持ちをもつこと」を大切に取り組みを進めています。毎月の異年齢活動である「なかよしデー」や、異年齢で食事や午睡、一つの遊びをする機会など多くの交流の場を設け子どもたちの成長を促しています。「なかよしデー」では、カラオケごっこやおしゃれごっこなどで楽しんでいます。</p>
<p>子どもたちが楽しく安心して食事ができるよう取り組んでいます。子どもたちが元気に楽しく食事している様子が訪問時に見られました。子どもたちの体にテーブルや椅子が合うように、足台を用意するなどの工夫をしています。食事のメニューは1か月に2度同じ献立になるため、1回目の子どもの食べ具合や反応を把握し次回の調理に反映しています。ひな祭りなどの行事食では季節が感じられるような献立や盛りつけを行うほか、行事の由来なども学んでいます。異年齢で食事する機会などでも食事の楽しさを伝えています。</p>

評価分類 (1) 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている。		A
<p>①早番職員は、保健日誌で子どもたちの前日の体調を把握し登園時視診を行っています。その後の経過や家庭での様子、本日の体調などについて登園時に確認しています。視診等で得た情報は、朝のミーティングで報告し全職員に周知しています。</p> <p>②基本的な生活習慣については保護者と連携をとりながら進めています。家庭での姿を把握し必要に応じ生活リズムの大切さを知らせ、保護者と共通理解で支援を進めています。園での状況はクラス懇談会や健康だより等で保護者に伝えています。子どもたちには三者連携集会で健康の大切さを伝えています。集会の内容は写真を入れた掲示物等で保護者に伝えています。</p> <p>③保育受入れ時の引き継ぎや連絡帳で家庭の様子を確認しています。体調を把握しその子に応じた休息を配慮しています。</p> <p>④プライバシー保護の考えは職員がしっかり理解し、口頭での伝達時や各種の記録時には個人情報保護に配慮した対応を心がけています。個別の連絡事項は申し送り簿を利用し担任以外の職員からも確実に保護者に伝わるようにしています。</p> <p>⑤保護者の意向は、個別面談や懇談会、行事後の感想等で把握し、職員会議等で保育や行事の見直しに結びつけています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	登園時に家庭での子どもの様子を保護者に確認している。	○
②	子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるよう支援を行っている。	○
③	休息（昼寝も含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している。	○
④	お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている。	○
⑤	保育所の保育に関して、保護者の考え方や提案を聴く機会を設けている。	○

評価分類 (2) 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。		A
<p>①特例保育時間には、集団が大きくなり過ぎないように配慮し年齢に応じた保育を心がけています。少人数で楽しめるカードゲームなどの遊具も取り入れ子どもたちが好きなことができる空間や時間、遊具の提供をしています。</p> <p>②異年齢保育では、4つの異年齢のグループ集団をつくり、さらにグループを細分化し3人の小集団をつくってグループ活動を進めています。集団では、大きい子が小さい子に対して思いやりの気持ちをもつことや、大きい子に憧れたりするような取り組みを進めています。毎月、異年齢活動である「なかよしデー」や、異年齢で食事や午睡、一つの遊びをするなど多くの異年齢活動の機会を設け、異年齢での関りを通し子どもたちの成長を促しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	○
②	年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている。	○

評価分類		A
(3) 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している。		
<p>①子どもたちが、楽しく食事ができるように、子どもにテーブルや椅子が合うように、足台を用意するなどの工夫をしています。子どもたちが楽しく食事できるよう、声掛けで子どもの食への関心や興味につながるよう取り組んでいます。食事の開始時には、当番の子どもたちがメニューを紹介したりいただきますと大きな声で伝えています。</p> <p>②ひな祭りなどの行事食では、季節が感じられるような献立や盛りつけを行い、子どもたちが楽しく食事できる工夫を行っています。日々の給食では、月に2回同じ献立になるので、1回目の子どもの反応や状況を把握し、次の調理に反映しています。給食のレシピを作成し登降園時に保護者が持ち帰れるよう玄関に配置し保護者が家庭ですぐ作れるように4人前の材料や作り方を伝え喜ばれています。</p> <p>③アレルギー児の除去食や発達状況に合わせて離乳食を提供しています。体調がすぐれない状況や口腔内の怪我などについては状況に合わせて配慮食を提供しています。</p> <p>④園庭で栽培した野菜などの提供や調理保育、健康集会、行事食などの取り組みは保護者に伝えています。子どもたちには、仲良しグループで食事する機会も設け食事の楽しさを伝えています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している。	○
②	メニューや味付けなどに工夫をしている。	○
③	子どもの体調や文化の違いに応じた食事（アレルギー対応を含む）を提供している。	○
④	保育所の食育に関する取組を保護者に対して伝える活動をしている。	○

評価分類		A
(4) 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている。		
<p>①けがや病気の予防については、三者連携（看護師・栄養士・保育士）で健康集会を行い子どもたちに伝えています。けがにつながるヒヤリハット事例が起きた場合は、適宜集会を行い子どもに、園で決めている「安全に過ごす為の約束」を再度伝え、約束を確認し事故の再発を防止しています。</p> <p>②すこやか手帳や健診結果等の個別連絡は、個人情報保護に配慮し対応を進めています。すこやか手帳は持ち帰らず園内で見てもらっています。保健日より健康に関する情報を伝えています。子どもたちの健康状況は、ミーティングや会議で情報共有をしています。</p> <p>③感染症等の対応は、保育説明会、懇談会等で説明しています。保健日より感染症の情報を伝えるほか、玄関やクラス掲示でも伝えています。予防接種等保護者に伝える内容はデータを元に個別に声掛けをしています。子どもたちの午睡については、睡眠時チェック表で定められている内容に沿って確実に確認しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている。	○
②	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それぞれの保育に反映させている。	○
③	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域
5 運営上の透明性の確保と継続性
保育目標を「た・か・い・し」の頭文字を使って表し、保育説明会の資料では分かりやすいイラストを用いて説明をしてなど、伝えることを、わかりやすく伝える工夫に取り組んでいます。理念・基本方針は、事務室、玄関、各部屋に掲示して、保護者や地域の来園者等に伝えています。職員には、年度初めの職員会議で保育理念、保育目標、保育方針を確認しています。
保育園の課題に関する5つのプロジェクト「環境（外）」「環境（中）」「危機管理」「地域子育て支援」「民間連携人材育成」に全職員が分かれて担当し、計画を立て自主的に課題解決に取り組んでいます。プロジェクトの見直しも常に行われ、たとえば環境を「環境（外）」と「環境（中）」に分けて、重点的に取り組むなどの見直しを行っています。各クラスで困っていることがあれば聞いて、どうしたらよいかの会議を月1回行っています。プロジェクト会議があることで、頑張ろうというモチベーションが生まれてきています。
保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らし合わせた事例の振り返りや川崎市「保育の質ガイドブック」を活用した公開保育の実施等を行い、保育の質の向上に努めています。職員は、市の運営管理課が主催する研修や麻生区保育総合支援担当主催の研修や会議に出席し、質の向上のため研鑽につとめています。そのなかで重視しているのは、前年度の取り組みを踏襲せず、業務の見直しや効率化に取り組むことです。そのために毎月の業務予定を各職員が出し、働き方の見直しを進め事務作業時間の確保に取り組んでいます。

評価分類		A
(1) 事業所が目指していること（理念・基本方針）を明確化・周知している。		
<p>① 保育理念に基づいて、わかりやすく保育目標を「たかいし」の4文字を頭に「た 楽しくあそぶ子ども、か 考える子ども、い 意欲のある子ども、し 自分を好きになれる子ども」と掲げ、方針を定めています。</p> <p>② 理念・基本方針は、見やすいところ、事務室、玄関、各部屋に掲示して、保護者や地域の来園者、関係機関の方々の目にとまるようにしています。同時に、子ども本人や家族の方々には特に、入園のしおりや保育説明会の資料に明記し、説明会や懇談会を通して保護者に伝え、子どもには保育活動を通して伝えるようにしています。</p> <p>③ 職員については、年度初めの会議で保育理念、保育目標、保育方針を確認しています。そして1年を通しての振り返り（週、月、期、年）を行い、全職員で理解を深めるようにしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	理念・基本方針を明示している。	○
②	理念・基本方針について、職員の理解が深まるような取組を行っている。	○
③	理念・基本方針について、子ども本人や家族等の理解が深まるような取組を行っている。	○

評価分類		A
(2) 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる。		
<p>① 保育理念、保育目標、保育方針の実現に向けて中長期的な視点で「全体的な計画」を策定しています。具体的には市の策定する中・長期計画を、保育園では年度計画を4期に分けて立案し、各期末と年度末に振り返りを行い、次期、次年度計画に活かしています。</p> <p>② 事業計画の策定には、ほぼ全員がかかわるようにしており、各期、前年度末の振り返りでの課題をもとに職員が分担して計画策定に向けて会議で提案しあい、相互に検討し、全体として決定するという形で、組織的に取り組んでいます。</p> <p>③ 事業計画の職員への周知については、全体会議で確認するのはもちろんのこと、全職員に配布し、いつでも見られるように各自で所有しています。保護者等に対しては、年度当初の保育説明会で事業計画を配布し主旨説明をしています。その後の進捗についても、クラスだより、園だより、クラス別に年2回行う懇談会でも詳しく知らせています。特に説明時にわかりやすく行うことに留意し、プレゼンツールを使うなどして説明しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	理念・基本方針の実現に向けた中・長期計画が策定されている。	○
②	中・長期計画を踏まえた年度単位の事業計画が策定されている。	○
③	事業計画の策定が組織的に行われている。	○
④	事業計画が職員に周知されている。	○
⑤	事業計画が保護者等に周知されている。	○

評価分類		A
(3) 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている。		
<p>① 高石保育園運営方針を明示し、業務分担を明確に行い、そのなかで園長の役割と責任を明確にしています。たとえば、川崎市や麻生区に関する重要な案件については園長が窓口になり、連絡相談を行っています。</p> <p>② 川崎市の運営管理課が主催する研修や麻生区保育総合支援担当主催の研修や会議に職員を参加させるなど質の向上のための研鑽につとめています。また保育園の課題に関して5つのプロジェクトを設けて、全職員が質の向上に取り組めるようにしています。プロジェクト自体も固定化するのではなく見直しを行いながら取り組んでいます。</p> <p>③ 川崎市から示される予算内で、適正かつ効率的な予算執行をしています。そのなかで重視しているのは、前年踏襲をせずに業務の見直しや効率化に取り組むことです。そのために働き方の見直しのための各月の業務予定を各職員が出し、事務作業の時間の確保の工夫をしています。業務予定表の提出により、業務の見える化が行われ、時間調整、事務の割り振りもしやすくなっています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	○
②	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	○
③	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	○

評価分類		A
(4) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。		
<p>① サービス内容については、定期的に月、期、年単位で保育計画や行事等の業務の振り返り、反省を行っています。</p> <p>② 反省会での課題を会議で検討し、改善策を策定し、次期・次年度の計画に取り入れています。反省は、まず担当者が振り返りを行い、そのあとにみんなで検討するという方式で行っています。つまり、ひとりひとりの気づきと、みんなでの問題意識や課題の共有化をするようにしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	○
②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	○

評価分類		A
(5) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
<p>① 事業経営を取り巻く環境の的確な把握に基づく事業運営については、川崎市総合計画に基づき、市の運営管理課、麻生区保育総合支援担当と事業を実施しています。そのなかで特に対応を強化しているのは、民間保育園も増えてきているので、公開保育の実施など、民間保育園への支援です。</p> <p>② 経営において改善すべき課題の発見や取り組みについては、麻生区保育総合支援担当者等と連携しながら地域の行政課題の把握を行っています。運営管理の予算は市の運営管理課により決められますが、現場としては臨時職員の雇用や必要物品の購入を計画的に行うと同時に、経費のかからない手作りでの改善に取り組んだりして、経費の削減に努めています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	○
②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	○

＜組織マネジメントに関する項目＞

共通評価領域 6 地域との交流・連携
「新たな公立保育所」の麻生区のランチ園として地域の子育て支援や民間保育園との連携や支援をさまざまな形で行っています。連携施設の一環として、近隣の小規模保育室の入園前健診、毎月の健康診断、歯科健診の合同健診なども実施しています。また保護者協議会主催の移動動物園やクリスマスコンサート等では近所の保育園や子育て家庭を受け入れています。
子育て中の親子の来園者には、積極的に声をかけ、温かく丁寧な対応を行い、関係づくりに努めています。また、「地域子育て支援 KOKOROE（心得）ガイド」を活用し、職員一人一人が地域支援についての意識や行動の振り返りを行っています。
以前と比べると会議などで議論が多くなっています。つまり、連携に心掛け、チームワークで動き、職員間で全体を知っている状況が作れてきています。そういう意味で業務の見える化の効果は大きく、精神的にも安心して協力し合えるようになっています。

評価分類 (1) 地域との関係が適切に確保されている。	A
①情報開示は、多様な機会ツール等を使って行っています。地域の方には掲示板で子育て支援事業の予定を知らせています。また園内で開催する子育て支援事業は「かわさき子育てアプリ」で情報提供しています。こども文化センターや区民祭では子どもの作品の掲示や園のパンフレットを配布しています。見学は随時受け入れ、丁寧に説明し園内を案内しています。月に2～3回、1回に5組ぐらいになることもあります。	
②区のランチ園として地域の子育て支援や民間保育園との連携や支援を行っています。毎月行う「いちごハウス」という遊びの会、身体測定や誕生会、園庭の毎日の開放や体験保育の「親子でランチ」、土曜日に開催している親子での遊びの会「にっこ高石」、離乳食の「もぐもぐ元気っ」 「HAPPY！ママライフ」での絵本や遊び等で園の持つスキルや専門知識を活かし講座や事業を行っています。各種の相談は随時対応しています。次世代を担う保育実習生やインターシップ、職場体験の受け入れも行っています。	
③ボランティアの受け入れについては、担当者を置いて対応しています。事前のオリエンテーションで子どもの人権や個人情報保護などについて伝えています。	
評価項目	実施の可否
① 地域社会に対して、開かれた組織となるよう、事業所に関する情報を開示している。	○
② 事業者が有する機能を地域に提供している。	○
③ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	○

評価分類 (2) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	A
①園長連絡会議、園長・校長連絡会、要保護児童対策協議会等に参加し情報交換や地域の課題について話し合っています。	
②地域の関係機関・団体の共通の課題への協働的な取り組みについては、子育て支援連携会議への出席、要保護児童対策協議会の個別支援会議の実施により、情報共有をし、それぞれの役割に応じて課題解決に向けての支援方法を検討しています。	
③地域の福祉ニーズを把握するために、事業活動に積極的に参加しています。特に地域の方と直接接すること、関係機関と共に活動することが地域ニーズの把握にとって効果的と考えて活動しています。	
評価項目	実施の可否

①	関係機関・団体との定期的な連絡会等に参画している。	○
②	地域の関係機関・団体の共通の課題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
③	地域の福祉ニーズを把握するため事業・活動に参加している。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 7 職員の資質の向上の促進	
<p>各自の業務量の見える化のため業務予定表の記入や計画的な休暇取得に向け希望を調整する取り組みを行っています。同時に、業務が多くなってきているので、効率的にできる方法はないかなど検討しています。見える化を行うことで、業務の負荷状況が把握でき、かつ共有化できるので、時間調整がしやすくなり、お互いに助け合う状況が生まれてきています。</p>	
<p>定期的な個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っています。また研修成果を保育の現場に活かす活動を積極的に行っています。たとえば、研修に参加後は、救急法の実技研修やインクルーシブ保育の公開保育を行い、学びを広く共有できるようにしています。</p>	
<p>職員の育成については、教育・研修計画に基づき進めています。具体的な取り組みについては、各職種のキャリアシートがあり、自身の現状を確認し目標を明確にすることで、キャリア形成に取り組んでいます。個々の職員に対しては、現状での達成度の把握と課題を確認し、育成担当者との面談を実施しています。また、研修には個々の職員の希望を確認し参加できるようにしています。研修参加後は、研修報告書を提出し会議での報告を行うことになっています。受講者の研修アンケートは、次年度の研修計画の立案に役立てています。</p>	

評価分類 (1) 事業者が目指しているサービスを実現するための人材構成となるよう取り組んでいる。		A
<p>①川崎市の職員配置基準に基づく人員配置を行い、特別の配慮が必要な子どもの支援のためには状況に応じて加配職員による、人員増が行われています。年齢別の受入れ児童数を事前に申請することで、必要な人材を配置することができています。</p> <p>②川崎市の公務員として法令を遵守し服務規律の確保を行い、定期的に自主考査を実施しています。また全国保育士会保育士倫理綱領を折に触れ確認しています。</p> <p>③川崎市人材育成基本方針や川崎市保育士等専門職人材育成のあり方に基づいた研修等を実施しています。人事評価制度による人事管理、人材育成を実施し、年3回の園長との面談を通じて職員の業務の進捗状況の確認、指導、助言を行い、評価を実施し報酬と連動した人材マネジメントを実施しています。</p> <p>④保育実習生、看護実習生の受け入れを積極的に行い、30年度は9校の受け入れを行いました。実習以外にも単発の職場体験等の受け入れも行っています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	必要な人材や人員体制に関する具体的な考え方が確立している。	○
②	具体的なプランに基づく人材の確保に取り組んでいる。	○
③	遵守すべき法令・規範・倫理等を正しく理解するための取組を行っている。	○
④	職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格など）が連動した人材マネジメントを行っている。	○
⑤	実習生の受入れと育成が積極的に行われている。	○

評価分類 (2) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		A
<p>①川崎市人材育成基本方針、川崎市保育士等専門職人材育成のあり方に明示され、運営管理課による保育園職員人材育成研修計画、麻生区研修計画に基づき研修に参加しています。</p> <p>②教育・研修計画に基づく具体的な取り組みについては、保育士、看護師、栄養士のキャリアシートがあり、自身の現状を確認し目標を明確にすることで、今後のキャリア形成に役立てる取組をしています。個々の職員に対しては、現状での達成度の把握と課題を確認し、育成担当者との面談を実施しています。また、研修には個々の職員の希望を反映して参加できるようにしています。さらに自主研修にも参加できるようにしています。</p> <p>③定期的な個別の教育・研修計画の評価・見直しについては、研修報告書を提出し、会議での報告を行うことになっています。受講者の研修アンケートを元に反省し、次年度の研修計画の立案に役立てています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	○
②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	○
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	○

評価分類 (3) 職員の就業状況に配慮がなされている。		A
<p>①川崎市職場巡視実施要領に基づき産業医による職場巡視を実施しています。また衛生推進担当者による年2回のワーキングに参加し、職場の状況を報告し、必要に応じて改善に向けての働きかけも行っている。</p> <p>②職員の福利厚生や健康の維持については、年度初めに職場巡回健康相談を実施し職員が相談できる仕組みがあります。また職員厚生会があり福利委員を配置し、様々な福利厚生を行っています。</p> <p>③全職員のストレスチェック集団分析を実施し、その結果に基づき、職場環境改善に取り組んでいます。また川崎市に職員保健相談室が設置されており、精神保健相談、専門医相談が受けられるようになっていました。さらに働き方チェックを年2回行い、休暇取得や時間外に仕事の話をしていないかなどチェックし、改善に結びつけています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	○
②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	○

〔認可保育所版〕

評価実施シート【自己評価用】

職員用（集計）

施設・事業所名

川崎市高石保育園

実施方法：全職員に評価シートを配布し、回答はアンケート回収箱に投入してもらい、後日回収を実施。

配布数 23通

回収数 23通

回収率 100%

評価実施シートから自己評価を実施する場合の記入手順

1 評価分類に対する事業所の取組状況を確認するため、「評価の項目」記載の取組について、

- すべて実施が確認できた（満たしている）ときは「できている」
- すべての実施が確認できないときは「できていないところがある」
- すべて実施されていないければ「できていない」

から選択し、評価欄へ○を付けます。

2 評価分類については、◆ねらいと（留意点）、評価項目に関しては、評価の視点を参照してください。

3 すべての評価分類について確認をしたら、共通評価対象領域ごとに、「力を入れている点、工夫している点など」と、「改善する必要があると考える点」について、記載します。

共通評価対象領域	
(サービス実施に関する項目)	1 サービスマネジメントの確立
	2 人権の尊重
	3 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供
	4 サービスの適切な実施
(組織マネジメントに関する項目)	5 運営上の透明性の確保と継続性
	6 地域の交流・連携
	7 職員の資質の向上と促進

★ 保育所の場合、保育所保育指針の中で「保育士等が、自分の保育実践を振り返って自己評価すること」が求められており、「保育士等の自己評価」を踏まえ、保育所の自己評価を実施することが求められます。そのため、「保育士等の自己評価」とは異なります。

平成30年度 認可保育所 職員自己評価(川崎市高石保育園)

対象保育所: 川崎市高石保育園

自己評価の対象者数: 23名

回収率: 100% (23名)

1. サービスマネジメントシステムの確立 (サービス実施に関する項目)

	評価分類	できている	できていない 事がある	できていない	無回答
1	サービスの開始・終了時の対応が適切に行われている。	100% (23人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)
2	手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行い、サービス実施計画を策定している。	100% (23人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)
3	サービス実施の記録が適切に行われている。	100% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)
4	提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。	96% (21人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)
5	利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)

2. 人権の尊重 (サービス実施に関する項目)

1	サービスの実施に当たり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している。	100% (23人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)
2	利用者のプライバシー保護を徹底している。	100% (23人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)

3. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供 (サービス実施に関する項目)

1	利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。	96% (22人)	4% (1人)	0% (0人)	0% (0人)
2	利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)
3	子ども一人ひとりの発達の状況に応じた援助を行っている。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)

4. サービスの適切な実施 (サービス実施に関する項目)

1	家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている。	92% (21人)	4% (1人)	0% (0人)	4% (1人)
2	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるように配慮している。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)
3	子供が楽しく安心して食べる事ができる食事を提供している。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)
4	子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)

5. 運営上の透明性の確保と継続性（組織マネジメントに関する項目）

	評価分類	できている	できていない 事がある	できていない	無回答
1	事業所が目指している事(理念・基本方針)を明確化・周知している。	100% (23人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)
2	実践的な課題・計画策定に取り組んでいる。	100% (23人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)
3	管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている。	100% (23人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)
4	質の向上に向けた取組が組織的に行われている。	92% (21人)	4% (1人)	0% (0人)	4% (1人)
5	経営環境の変化に適切に対応している。	92% (21人)	0% (0人)	0% (0人)	8% (2人)

6. 地域との交流（組織マネジメントに関する項目）

1	地域との関係が適切に確保されている。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)
2	地域の福祉向上のための取組を行っている。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)

7. 職員の資質の向上の促進（組織マネジメントに関する項目）

1	事業者が目指しているサービスを実現するための人材構成となるよう取り組んでいる。	88% (20人)	4% (1人)	0% (0人)	8% (2人)
2	職員の質の向上に向けた体制が確立している。	96% (22人)	0% (0人)	0% (0人)	4% (1人)
3	職員の就業状況に配慮がなされている。	88% (20人)	8% (2人)	0% (0人)	4% (1人)

平成30年度 川崎市高石保育園

評価実施シート(職員用)記入欄集計

下記内容は、評価実施シート(自己評価用)の「力をいれている点、工夫をしている点など」の項目と「改善する必要があると考える点」に記載されている内容を、誤字・脱字・明らかな間違い等のみ修正しほぼ原文に近い形にて記載しています。尚、同一の内容・表現については代表的な内容を記載しています。

●<サービス実施に関する項目>

1. サービスマネジメントシステムの確立

(力をいれている点、工夫している点など)

- 利用者の安全を確保するための取り組みとして環境や危機管理等プロジェクトに分かれ話し合い、職員も訓練している。
- 入園後の慣れ保育は保護者と相談しながら丁寧に行っている。防災訓練は実施日を非公開で行い、実際に災害が起こった時に対応できるようにしている。
- マニュアルや手引きの定期的及び必要に応じて見直しをする。全職員に周知し実施する。
- マニュアルに基づき周知徹底し、必要に応じて見直し、検討をしている。それを個人でも確認しながら業務にあたっている。
- ケース検討会議を行い、情報共有を行っている。職員が防災訓練に参加し、子どもに防災教育を行っている。
- 子どもの健康状態や園で流行っている感染症について毎日情報収集している。保健だよりや感染症情報はこまめに、玄関掲示で知らせている。
- 非常用備蓄食品の他に米菓等の在庫をローリングストック法で保存している。
- 保護者との信頼関係を丁寧に築いていきながら一人ひとりの子どもに合った対応を心掛けている。緊急時の対応周知、避難訓練等、反省を次に生かせるようにしている。

(改善する必要があると考える点)

- 園舎が古くなっているので直してほしいところがたくさんある。布団や床などの敷物をもっと衛生的に管理しやすいものにしたい。

2. 人権の尊重

(力を入れている点、工夫している点など)

- 懇談会で子どもの人権について話題にしている。
- 保護者の関わりについて共通化できるようにマニュアル作成している。
- 登園時に子どもの身体状況を見ている。
- 保護者自身の心の安定につながるよう登降園時や面談時にゆっくりとお話を伺うようにしている。
- うんちを取り替える時は、扉を閉めたり、見えにくい位置で取り替えるようにしている。
- 苦手意識があっても一口なら食べられるかなど励ましの声掛けをしている。(給食、おやつ喫食時)
- 子どもの気持ちに配慮した支援を行っている。
- 言動に注意しあえる環境や関係になるように、会議等で人権について話し合う機会をつくっている。
- 子どもの人権を尊重して保育する。
- 個人情報になることは外部の人や保護者の前で話さないようにしている。
- 人権のプロジェクトがあり、職員みんなで人権について考え、話し合いをし、保護者に何を伝えるか討議する場を設けている。
- 支援の必要な子の発達相談を申請する際には必ず保護者に説明し、了承を得てから行っている。
- 職員が人権について話し合う機会をもち、臨時職員には直接伝えたり、保護者にも懇談会で園での取り組みを知らせたりしている。
- 園の人権マニュアルを作成し作成するにあたり、人権について職員間で討議し共通認識をもつ。
- 年2回懇談会で人権について保護者と話す機会をつくっている。
- 一人ひとりの違いを互いに受け入れ認め合えるよう、クラスの中で「良いところ探し」幼児クラスで「人権集会」をもつ。
- 個人情報保護は保護者対応時に事務室を利用している。
- 一方的な解釈をしない。
- 一人ひとりを大切に保育している。
- 人権プロジェクト担当と共に保育の振り返りを行い、人権についての検討を行っている。

(改善する必要があると考える点)

—

3. 意向の尊重と自律生活への支援に向けたサービスの提供

(力を入れている点、工夫している点など)

- 保護者の意見・感想を参考に討議を行い、改善できるところは職員間で考え工夫していている。
- コミュニケーションの取りやすい関係を意識し、話をしやすい雰囲気をつくっている。
- 行事の内容や進行など、アンケートを実施し検討して来年度に活かしている。
- 毎日ミーティングや会議等で情報を共有している。
- 子ども一人ひとりを受容したかわりを心掛けている。
- 必要により、発達を複数名で見て相談員につなげている。
- 特別な配慮が必要な子どもに対して「ぱんだルーム」と名付け、保護者の許可を得て個別支援できるよう少人数で関わり、保育できる時間をつくっている。
- 常に保護者との、真中に子どもを据え、思いに寄り添うよう努めている。
- 個人ケース会議で子どもの育ちを共通認識している。
- 子どもに応じた援助（インクルーシブ教育、ぱんだルーム）
- 年2回の保護者会と個人面談（年1回希望あれば随時）で保護者の意見を聞くようにしている。保護者会では人権について話す機会をつくっている。
- 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている。
- 日々の送迎や連絡帳でのやりとり等、保護者の気持ちに寄り添い話しやすい関係が築けるよう心掛けている。
- 保育参観や保育参加で実際の保育を見てもらい、すぐに話が聞けるよう同じ日に個人面談を行うようにしている（保護者の都合に合わせて別日の場合もある）。
- 子どもからの発信には必ず耳を傾け、言葉で伝えられない乳児にも応答的に関わるよう心掛け、保育者が決めるのではなく、子どもと一緒に考えていくことを大事にしている。
- 懇談会や個人面談だけでなく、日々の送迎時に会話を多く持ちつつ、気持ちを引き出し、一緒に考えながら保育にあたるように心がけている。
- 指導計画を基にしながらも、一人ひとりの発達について会議の場で討議し、記録により振り返り、次の活動へと生かしている。
- 何かあれば職員に周知するよう、日々の情報共有に努めている。
- インクルーシブ保育に心掛けている。
- 職員間で事例についての討議をし、振り返りを行っている。

(改善する必要があると考える点)

- 正規職員以外の職員に対して人権やサービスの質の確保への取り組みが少ない。
- 子どもへ話しかける言葉使いや表現方法について。

○今、園庭周りのブロック壁工事の関係で一部使えない場所があるが、園庭環境をも少し工夫して自発的な遊びを促し、しなやかな体作りにつなげていきたい。

4. サービスの適切な実施

(力を入れている点、工夫している点など)

- 情報を共有化し、きめ細かな保護者対応をしている。
- 保育時間が長い子が多い。静と動の遊びを取り入れて過ごしている。机上の遊びでは発達に合わせた手先を使った遊具（パズルや手作り遊具他）製作、他を楽しんだり、悪天候で外に出られないときは、床にテープをはるなど工夫し、ジャンプや一本橋、マット遊び、体操他で発散しながら、その年齢に合った遊びの工夫、組み立てをしている。またパネルシアター、手袋人形、他いろいろな手作り遊具を利用し、子どもが有意義な時間をもてるようにしている。
- 各家庭により状況が異なるので、持ち物などについても柔軟に対応している。
- 迎えの遅い家庭には引継ぎ簿等を使い、遅番の職員から伝えてもらうようにし、必ず連絡できるようにしている。
- 常に保育を見直し検討を行っている。
- 保育士、看護師、栄養士が専門性を活かしながら、同じ方向性のもと子どもたちに関われるよう会議などを通して意思統一を図っている。
- 一人ひとりのリズムを大切にし、生活できるようにしている。
- どの保護者に対してもこちらから挨拶し、子どもの様子を伝え、担当クラス以外の保護者との信頼関係を築けるように心がけている。
- アレルギー体質の子どもとも、会食等一緒に参加できるようにメニューを考え、その時の環境等、工夫している。
- 子どもが楽しく安心して食べることが出来る食事を提供している。
- 幼児クラスでは異年齢交流を計画的に実施している。
- 三者連携（保育士、看護師、栄養士）で健康集会を子ども向けに行い、その様子も写真入りで掲示、保護者に伝えている。
- 栽培活動、収穫物を使用した食育をしている。
- 保護者への連絡事項は確実に伝わるよう、個別の「連絡帳」を使用している。職員間での共通認識、意思疎通のもとで、子どもへの適切な援助を考えている。
- 調理保育を行っている。
- 健康集会の様子・結果を当日にお知らせしている。
- 食事は会話や雰囲気大切に楽しんで食べられるよう心掛けている。
- 栽培調理、調理保育、行事会食など担任や担当と連携しながら行っている。
- 安心して園生活を送れるよう一人ひとりの状況を把握し、気持ちに寄り添いながら対応している。

*三者連携による健康集会の実施については上記以外でも数多く記載されている。

(改善する必要があると考える点)

- 一人の保育者の介助できる範囲にするために子どもと子どもの距離が近すぎる感じがする。
- 除去食の子が複数人いると大変になってくる。

●<組織マネジメントに関する項目>

5. 運営上の透明性の確保と継続性

(力を入れている点、工夫している点など)

- 年度初めに皆で確認し計画的に実施している。
- 運営管理課、区主催の研修等に各自が目指すスキルアップのために受講したい研修の希望調査をとり、参加できるようにしている。
- 理念、基本方針を毎年度当初、末に職員全体で見直している。
- 研修報告の定期実施及び実践の検証。
- 業務の効率化、改善に向け全職員にアンケートなどで意見を吸い上げている。
- 月の業務予定表を各自記入し進捗状況を確認しながら事務時間の割り振りをしている。
- 事業所が目指していること（理念・基本方針）を明確化・周知している。
- 新入児、在園児に関わらず、新年度初めには説明会を行ったり、クラス懇談会等を通して保護者と思いを共通させる取り組みをしている。
- 保育の質ガイドブックを用いた公開保育。
- 「た・か・い・し」の頭文字を使った保育目標

(改善する必要があると考える点)

- 理念や基本方針について、子どもや保護者の目にとまりやすい場所に掲示等できているか？
- 一人で受け持つものがたくさんあり、タイトである。一人が病気、怪我などでできなくなるものがあったり、天候や感染症時期もあり準備しても参加者が集まらなかったりすることがあり、内容の検討も必要である。
- 公開保育等、積極的な研修への参加。

6. 地域との交流

(力を入れている点、工夫している点など)

- 各子育て支援事業の実施。
- 関係機関と連携した取り組み。
- 地域の方と交流する時は、相手の希望するところを把握し、それに合うような講演活動などを行っている。
- プライバシーや安全面に非常に気を使っている。
- 地域の保護者、関係団体、実習生やボランティアなどとの関係を大切にし、積極的に関わりをもった取り組みがなされている。
- 地域支援事業のあそびの会を月に1回実施のほか、年間通して地域向け事業を数多く行っている。
- 地域のおまつりに参加するなど、つながりを持てるようにしている。
- 園庭開放から「いちごハウス」「にこにっこ高石」等、遊びや交流の場を設定し、保育士、栄養士、看護師、発達相談支援コーディネーター等、専門的な相談まで対応していけるよう連携し、地域支援として行っている。
- 地域との関係が適切に確保されている。
- 園庭開放、子育て講座など地域の親子向けに行っている。地域の盆踊りなどのイベントに子どもたちが歌うなどの形で参加している。
- 民間園との交流も行っている。
- 地域支援事業にて、子育てのヒントや楽しさを伝えるように心がけている。
- 地域親子のニーズをつかむ努力をしている。
- 地域子育て事業の取り組み（毎月の親子で遊ぶ会「いちごハウス」、園庭開放、育児相談のほか、公共施設、大学等でのイベントに参加し、子育て支援をしている。
- 事務室前の掲示板やちらしで地域子育て支援を知らせている。
- 区の保育総合と連携して取り組みを行っている。
- 地域の親子も子育ての楽しさを感じてもらえたり、悩みがあれば気軽に話の出来る関係をつくっている。

(改善する必要があると考える点)

- 園内の保育計画に支障がないよう日程調整をしていくことが難しい。
- 地域の子育て支援の充実。
- 地域住民より入りにくいとの声があった。立ち寄りやすい工夫がよりなされるとよい。

7. 職員の資質の向上

(力を入れている点、工夫している点など)

- 皆で協力しあって休暇を取りリフレッシュしながら仕事にむかえるようにしている。
- 職員会議等で研修報告をしている。
- 病気や怪我の時、休みがとりやすい職場の雰囲気になるよう、心掛けている。
- 職員の資質向上のため「環境」「子育て支援」「民間連携支援・人材育成」「防災」のプロジェクトをつくり、全職員で取り組んでいる。
- 新保育所保育指針を元に保育の見直しの中で子どもへの理解を深められるようにしている。
- 実習生を受け入れるにあたり、次世代の担い手として保育の基本を伝えている。
- 互いに休息がとれるよう、健康に配慮している。
- 月の各職員の仕事を各自で記入し、全職員で把握し、フォローし合い仕事を行う（業務予定表）の活用。
- 職員会議の中で研修報告、質疑応答を行い、職員間で学びを共有できるようにしている。
- 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。
- 新人職員に対してのOJTを行い、人材育成を行っている。
- 年々実習生の学ぶ姿勢、意欲が見られない等、基本的社会人として大丈夫かな？と思われることも多く感じられるようになってきた。保育者としての質以前に人として・・・という面も含め、伝えていくことの難しさを感じながら、それでもそれなりの保育士になってもらいたい思いで、丁寧に関わるよう心掛けている。
- 「キャリアシート」を活用してのキャリア形成。
- 区の各連携会議、研修の実施。

(改善する必要があると考える点)

- 休暇の日数に偏りがあるのではないかな。
- 臨時職員がなかなか見つからず、正規職員が穴埋めをしなければならない状態なので、求人方法の改善が必要。

利用者アンケート結果(川崎市高石保育園)

1. 調査対象

利用者の保護者全員を対象としました。(一家族に複数利用者は1件)

2. 調査方法

保育園より保護者にアンケート用紙を渡してもらい、回答は保育園入口に設置したアンケート用紙回収箱に入れてもらい、後日、評価機関が回収しました。

3. アンケート発送数及び回収数

利用者数：81世帯 回収数：61世帯 回収率：75.3%

4. コメント

アンケートの回収率は75.3%になっています。まずまずの回収率でした。

<サービスの提供>

ほとんどの項目で利用者の満足度が90%以上と高いですが、「安全対策が十分に取られているか」については、「はい」との回答が85.2%と一番低く、利用者から対応への懸念が寄せられています。

<利用者個人の尊重>

「一人ひとりの子どもは大切にされているか」については、100%の利用者が満足していますが、「子どものプライバシーは守られているか」は88.5%と一部の利用者に不安があるようです。

<相談苦情への対応>

「保護者の考えを聞く姿勢について」は96.7%の利用者が「はい」と回答していますが、「第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか」については「はい」と答えた利用者は62.3%で、23.0%の利用者は「いいえ」と回答しています。

<周辺地域との関係>

「周辺地域と園との関係は円滑に進められているか」について、90.2%の利用者が「はい」と回答し、近隣との良好な関係がうかがえました。

<利用前対応>

利用前の説明については、対象者の42.6%が「はい」回答し、無回答者が44.3%いました。

*全体的には、サービスの提供については満足度は高くなっていますが、「安全対策」

については若干懸念を持っているようです。また、「第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っている」利用者が62.3%と他の項目に比べると低くなっています。さらに無回答者が多いことも含め、利用前の対応に対する「はい」という利用者が少なくなっています。

（利用者アンケート自由記入欄）

頂いたご意見の内容の趣旨を変えないよう配慮し、個人が特定される表現や誤字・脱字を一部修正しています。

○子どもの日中の様子などを担任でない先生からもよくお伺いすることができ、ありがたく思います。子どもだけでなく保護者の体調の心配してくださいませ。

○誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指して、川崎市ではパラムーブメントが推進されていますが、高石保育園ではまさにこの理念がすでに浸透している立派な社会だと思えます。また、環境への負荷が少ない生活が実践されていて、子どもたちにとって、この上ない環境が整えられていると思えます。

○保育についてはよくして頂いており不満はありませんが、建物が古いので安全性（震災等）について少々不安を感じます。

○途中入園したにも関わらず、登園初日から本当に多くの先生から「〇〇君おはよう」と元気に明るく声をかけて頂いたことがとても印象的でした。園全体で一人一人の子どもみんなのことを考えてくださっていることがよくわかりました。実際ずっと母子ともに先生方に見守っていただき、力になっていただき、話を聞いていただき、安心して預かっていただいています。送迎の際もいろんな先生がいろんなエピソードを話して頂いたり、子どもたちが安定安心の生活ができることに感謝しています。他園から転入した分、園の特色、先生方の対応の差が見え、園の環境も含め、本当に入園出来て良かったです。

○お迎え時に、子どもの様子を頂くことがあり、助かることがよくありました。何かあった時の保護者への連絡はしっかりしていると思えます。

○掃除や目隠し用カーテンなど先生方はとてもよく管理してくださっていますが、トイレが古いなと感じます。できるなら、新しくしてあげていただけると幸いです。

○不審者を入れてしまったという事件があり、その後は防犯意識が強化されたものの、そのルールを守っている職員と守っていない職員がいるように感じる。保護者には厳しい。（仕事が終わったらすぐ迎えに来ることや休みでも預けたいときにはしつこく理由を聞かれたり、時間を限定したりする。）体調が悪かったり、疲れが出ているときなどは預けたいが「休みの日は家で・・・」等々と言われ、結局預けるのを断念したり、余計疲れる。丁寧に注意したい気持ちはわかるが話が長い。その割に聞こえるようにイヤミのようなことを言われ、いやな気持ちになったことがある。

- 共働きで本当に保育園にはお世話になっています。子どもをかわいいと愛情を注いでくださる先生方に感謝しています。
- 建物の老朽化が進んでいるので少しずつでも新しくすることはできないでしょうか。
- 毎年シラミが発生しているため対策をきちんとしたい。運動会の延期を全保護者にスムーズに伝えるため保護者会主体ということでメールサービスを導入しているが、利用目的は先生たちの負担軽減です。保護者会ではなく、市で対応を協議したい。(メールシステムが導入され、広告？アンケートが来て迷惑なのと、利用・運用方法があいまいと感じている)先生たちにお問い合わせされて導入しているが、上記について意見を述べると、「保護者会の事ですから・・・」と返答もあいまいです。
- 高石保育園の先生方にはいつも大変よくいただいています。ひとつ気になることがあるのは、時間帯によっては簡単に園の中へ入れてしまうことです。30年度よりIDカード導入し、朝夕はIDカードがないと入れない(インターホンで見せ、解錠してもらう)のですが、昼間は施錠して良いと思います。万が一「誰でもはいいから多数殺したい」といったような人がいれば保育園は狙われやすく、男性職員も一人なので、誰でも簡単にに入れてしまう状況なので「起こらないだろう」とは思っていますが、最悪の事態が起きてしまう前に、先生方の負担がない程度に改善して頂けると、より安心して預けられます。
- 子供が悩んでいるときも、相談にのっていただき丁寧に対応して頂くことができました。
- ベテランの先生が多く、毎日楽しく通園しています。シーツ交換等、大変な面もありますが、教室に入って様子も見れますし安心してお願いできています。
- 園舎の老朽化対応、何か予定あるか。網戸がないので虫刺されがひどい。
- 行事がコンパクト化している。普段の園生活プラスアルファで負担になると思うが、運動会や夏祭りは以前の方がボリュームがあった。夏のプールの日数が少ない。天気が良ければ月曜日も入れることを検討して頂きたい。お散歩増やしてほしい。朝登園時、大泣きしている子を放置している職員がいる。その子の親ではない保護者もそういった態度をみると不安になります。
- 毎日子供が楽しく過ごせる素晴らしい保育園だと思います。先生方もとてもやさしく接してくれます。
- 高石保育園の保育の質、環境ともに大変満足しています。民営の保育園では園児の保護者はどうしてもお客様扱いとなってしまう、保育士が保護者に対して毅然とした態度で対応できていないように感じる。(もちろんルールを守るように言葉を選びながら指導していると思うが、毅然とした態度というよりはお願いに近い対応なため、保護者に危機感が少ないように見える)最近「自分さえ良ければよい」と思う保護者が感染症の可能性があるにもかかわらず、検査をせずに登園したり、嘔吐をしたけれども熱がないので保育をして欲しいとごねたりする姿が見られる。また保育園から指

示があったにも関わらず、フード付きの危険な服や子どもが自分で着脱できない小さなボタンのブラウスを着せてきてしまう保護者もいる。集団保育の中で、保育の質や子どもの安全を守るために集団保育にふさわしくない行為をする保護者に対し、高石保育園の保育士は毅然とした態度で指導して下さるので、安心して自分の子どもを預けられる。高石保育園は何か問題が起きても、すぐに対処し、職員間で対策を検討し、決定した対策を保護者に示してくれるため、とても信頼できる保育園だと思う。民営保育園には民営保育園の良さがあると思うが、公立保育園が極端に少なくなった今、公立園の良さは稀少なものなので高石保育園には今後も頑張ってもらいたい。

○今通っている子は3人目ですが、これまで通っていた二人も高石保育園から愛情をたくさん注いでもらってました。この雰囲気のまま、この子ども通えればありがたいです。

○とてもよくして頂き感謝しております。

○今保育園も教育を取り入れてるところが多いので、少し取り入れて欲しい。子どもが学校に入ってから困らないような集団生活をさせて欲しい。先生たちはとっても子どものことを見てくれているのを感じます。

○築年数が経過していることもありますが、園庭への戸が開閉しにくいとか、1階フロアの環境設備にもう少し配慮があると良いと思います。また調理室のレイアウトが外と直接の荷物を受け渡していることに改善があるとよいと思います。園全体は落ち着いて、よい雰囲気なため、預ける側として安心感はある。

○1年間認定保育園に通い、翌年2次募集でなんとか高石保育園に入ることができ、ずっと第一希望だった園に入ることができ、とても満足しています。入園前から立地、園舎、園庭、先生のイメージは理想としていたものでしたが、入園してからも、まさにそのイメージ通りでした。先生方はベテランで相談にも親身に応えてくださり、頼りにしています。そしてなんでも手作り、修理しているところも、モノを大切にしている心が育つと思うので、それも高石保育園の魅力です。

○園長先生をはじめ、先生方そして補助員、用務員の方々、皆様とても子どもを大切にくださり、忙しい中でたくさんの行事などもしてくださっていることをとても感謝しています。保育園がとてもあたたかいところなので、今後小学校なども同様の雰囲気であることを望んでいます。先生によっては厳しい方もいらっしゃるかもしれませんが、そういった場合は、保護者とのコミュニケーションを積極的にとっていただき、子どものためを思っていることと是非お話いただきたいです。園庭も広く、プールもあり、のびのびと子供が過ごせる最高の環境であります。なかなか予算が記事しいのでしょうか。設備、消耗品、土木造園関連に是非予算を付けて頂きたいと思います。また臨時職員さんの早期の正職員化（落ち着いて働く環境、実績のために）、補助員さんの増員（正職員さんの増員が一番ですが難しいと思うので負担軽減のために）が行われるとよいと思います。日頃先生方の様子を拝見していると、子どものこと、保護者との関係、各種事務業務、会議、勉強と大変忙しくされていますので、ベテラ

ンである先生にもう少し子どもと向き合う時間を多くとっていただけたら有難いと思います。

- いつもいつも親切に対応して頂き、ありがとうございます。感謝の気持ちしかありません。
- 子供たちが伸び伸びと過ごしている様子が見られ、また担任以外の先生も子ども一人一人を気にかけてくださって、積極的に声掛けをしていただき、とても安心して子どもを預けることができます。
- 親が働いているからこそ預ける保育園なのにも関わらず、園のことにかかわることが多すぎると思います。園児もたくさんいて先生も大変だと思いますが、見切れていないことが多々あるなど感じる場所があります。うるさい親がいるからなのか、少しの傷で細かい報告があり、子どもはそれくらいケガをするだろうと思うんですが、家でケガしたところも言っておかないといけないのかと、面倒に思うことがあります。ただ、子どもの成長をきちんと見てくれているなど思うところもあり、先生方はよい先生が多い保育園だと思います。親がかかわることが多いことと、お迎えの時間にうるさいところを除けば、この園でよかったと思うところは多いです。
- トイレトレーニング中の子や低年齢の子はトイレに行く前に急いで大人が脱がせる場合がありますが、現状では廊下で脱がせる形になっています。
- 今年の担任の先生はとても子どもの様子や考えていることをくみ取ってくださり、保護者である私の表情やしぐさで心の内を理解してくださります。私たち保護者も状況によってすっかり忘れてしまったりすること、慣れないこともあるので、お願いというよりも一緒に考えて実現していく形になると良いと思います。高石保育園の布団のシーツ管理がつらいです。お昼寝コット希望します。
- どうしてもしょうがないのかもしれないのですが、送り迎えの時に担任の先生に話したい伝えたいことがあってもお忙しそうなので、なかなか声をかけづらいことがあります。なのでその伝えたいことは連絡帳にも書いておくので、伝わっているとは思いますが、やはり直に話すことも大事だと思うので・・・。
- 高石保育園は園の環境がとてもよく、子どもたちがのびのび過ごすことができています。先生方も素晴らしく、個人を尊重しながら愛情をたっぷりかけて面倒をみてくださっています。元気に挨拶ができる、当たり前のことのようですが、高石っ子は本当にいつも元気に挨拶ができます。これからもお世話になりたいとてもよい園です。
- 健やかに穏やかに過ごしています。園庭には自然がある環境で、様々な遊びを体験できています。
- 先生たちやさしく接して下さって満足しています。もし英語教室なども増やしたら100点満点です。
- 今民間の保育園が多い中、市営ということで昔からの安心感があると思います。園庭もあり、毎日子どもたちがのびのび遊んでいると思います。おもちゃも先生方のアイ

デアあふれる手作りのものだったり、お金をかけなくても、その年齢にあったものが提供されていて、いつもすごいなと思っています。

○子どものことについて気軽に相談できる雰囲気があり、非常に助かります。日々生活についても連絡帳で丁寧に教えて頂き、知りたいことはすぐ聞くことができます。季節ごとに必要なもの(冬は上履き用のブーツィ、夏用の帽子など)が多くありますが、直前に伝えられることが多いので、あらかじめ教えてもらえると助かります。担任の先生も非常勤(?)の先生方も本当に親身に接して下さって感謝しています。

認可保育所 利用者調査項目（アンケート）

川崎市高石保育園

●アンケート送付数（対象者数）（ 81 ）人

●回収率 75.3%（ 61 ）人

サービスの提供

利用者調査項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答
1	落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか。	96.7%	3.3%	0.0%	0.0%
		59 人	2 人	0 人	0 人
2	子どもの体調変化への対応は適切か。	98.4%	1.6%	0.0%	0.0%
		60 人	1 人	0 人	0 人
3	提供されている食事は、子どもの状況に配慮されているか。	98.4%	1.6%	0.0%	0.0%
		60 人	1 人	0 人	0 人
4	子どもの保育について、保護者と園に信頼関係があるか。	98.4%	1.6%	0.0%	0.0%
		60 人	1 人	0 人	0 人
5	園の生活で身近な自然や社会と十分かかわっているか。	98.4%	1.6%	0.0%	0.0%
		60 人	1 人	0 人	0 人
6	安全対策が十分に取られているか。	85.2%	13.1%	1.6%	0.0%
		52 人	8 人	1 人	0 人

利用者個人の尊重

7	一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		61 人	0 人	0 人	0 人
8	子どものプライバシーは守られているか。	88.5%	11.5%	0.0%	0.0%
		54 人	7 人	0 人	0 人

相談・苦情への対応

9	保護者の考えを聞く姿勢があるか。	96.7%	1.6%	1.6%	0.0%
		59 人	1 人	1 人	0 人
10	第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか。	62.3%	13.1%	23.0%	1.6%
		38 人	8 人	14 人	1 人
11	要望や不満はきちんと対応されているか。	80.3%	18.0%	1.6%	0.0%
		49 人	11 人	1 人	0 人

周辺地域との関係

12	周辺地域と園との関係は円滑に進められているか。	90.2%	9.8%	0.0%	0.0%
		55 人	6 人	0 人	0 人

利用前の対応

13	【過去1年以内に利用を開始され、利用前に説明を受けた方に】サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか。	42.6%	13.1%	0.0%	44.3%
		26 人	8 人	0 人	27 人